

「見える化」に取り組む

経緯と反響について



2025年11月
越前たけふ農業協同組合

JA越前たけふ(福井県)

ご登壇者

営農販売課

ふくつか

てるき

福塚 暉大



生産者の努力と消費者の理解を結びつけ、
有機栽培を拡大させていくこと

品目：米



コウノトリ
呼び戻す農法米



見える化商品を取り扱うきっかけと 知ったときの感想

令和5年、食と農の温室効果ガス削減運動連携協定を締結
4者連携協定(市、農協、生協、社協)



令和5年6月28日
JA越前たけふ農業会館にて

生産から消費まで温室効果ガスを削減する取組みを地域一体
となって推進する。

見える化商品を取り扱うきっかけと 知ったときの感想

令和5年8月…

農林水産省 大臣官房 環境バイオマス政策課より
温室効果ガス削減「見える化」ラベル実証事業の
生産者向けの勉強会を開催

令和5年8月3日
温室効果ガス削減「見える化」ラベル実証事業および
J-クレジット制度勉強会
JA越前たけふ農業会館にて



見える化商品を取り扱うきっかけと 知ったときの感想

勉強会を受けての感想・・・

JAで団体申請を行っている特別栽培米であれば「見える化」事業にも取組可能と考え、申請を行った。

狙いとしては・・・

- ・特別栽培に取り組む農家の苦労を「見える化」できる。
- ・当時は米価も安かったため、付加価値の創出→生産者の所得向上につながればという考えがあった。

⇒生産者目線からスタートすることに。

JAS有機



特別栽培認証①







特別栽培認証②～④



JAS、特別栽培合計



■特別栽培農産物制度とは？

<p>認証区分①</p> 	<p>節減対象農薬 : 栽培期間中不使用 化学肥料及び化学合成された土壌改良材 : 栽培期間中不使用</p>
<p>認証区分②</p> 	<p>節減対象農薬 : 栽培期間中不使用 窒素成分を含む化学肥料 : <u>当地比</u>5割以上減</p>
<p>認証区分③</p> 	<p>節減対象農薬 : <u>当地比</u>5割以上減 ※省農薬あきさかりは<u>当地比</u>8割以上減 窒素成分を含む化学肥料 : 栽培期間中不使用</p>
<p>認証区分④</p> 	<p>節減対象農薬 : <u>当地比</u>5割以上減 窒素成分を含む化学肥料 : <u>当地比</u>5割以上減</p>

元々使用していた栽培管理票(認証シール)と合わせて 1枚のシールにして貼付することに。

令和5年産



見える化ラベル



栽培管理票(認証シール)

「見える化」ラベルの愛称が決定しました！

見る × 選べる
≡
みえるらべる



認証①
(コウノトリ呼び戻す農法)
コシヒカリ・いちほまれ



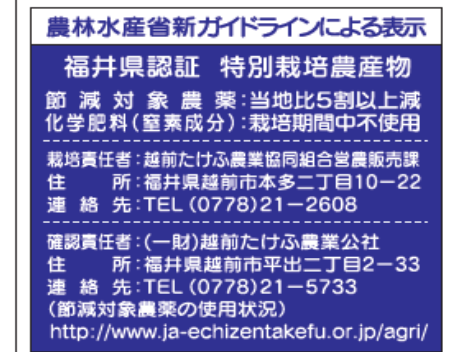
認証③
(省農薬栽培)
あきさかり



認証③・④
コシヒカリ・いちほまれ
タンチョウモチ



令和6年産



みえるらべる+認証シール

見える化の取組み内容

消費者へも環境負荷低減の取組みを理解してもらう



取組みを紹介する
土本代表理事組合
長(左写真)

店内販売の様子
(右写真)



ポップ等で紹介
(上写真)

令和5年9月14日
コープたけふ 平出店にて

見える化の取組み内容

消費者へも環境負荷低減の取組みを理解してもらう

越前市オーガニック都市宣言



人が自然に働きかけ、その恵みを受ける農の営みは、私たちの命の源泉である食につながるかけがえのない営みです。当市では、コウノトリをシンボルとし、生物多様性を確保する農業、また温室効果ガス削減など地球環境に配慮した農業として、かねてより有機農業や環境調和型農業が盛んに行われてきました。

しかしながら、地球温暖化は年々進行し、私たちの食や農を取り巻く状況は一層厳しくなっています。持続可能な食と農、環境を実現するため、生産から流通、消費まで、一貫して有機農業を進める必要があります。

日常における食を改めて見つめ直し、豊かな自然を創造し続ける農業を次の世代に引き継ぐため、ここにオーガニック都市宣言を行います。

2024年5月14日

越前市長 山田賢一

国制度で県内初

5カ年計画 生産、消費拡大へ

越前市が有機都市宣言

越前市は14日、有機農業の推進に地域ぐるみで取り組むとする「オーガニック都市宣言」を行った。国の制度でモデル地域に選ばれた全国の自治体が宣言を行っており、県内では初めて。同市の有機栽培の全耕地面積に占める割合は国内有数で、5カ年の計画に沿って生産から流通、加工、消費まで一貫した有機農業の拡大を目指す。

(細川善弘)

越前市では、国の特別天然記念物コウノトリをシンボルとして生物多様性の確保を目指す動きなどから、有機農業や環境調和型農業が普及。2023年度の有機栽培面積は全耕地の7・7%に当たる約276ヘクタールで、全国割合の0・6%を大きく上回っている。

農林水産省が21年度に策定した「みどりの食料システム戦略」に沿って選定している有機農業のモデル地域に選ばれた。全国では23年度までに93市町村が選定を受けて「オーガニックヒレッジ」を宣言している。越前市は、流通や消費までの広がりを目指すとして、独自に「オーガニック都市」の名称で宣言した。

宣言に合わせた24・28年度の実施計画では、有機農業の水稲栽培面積を23年度の135ヘクタールから170ヘクタールに拡大する目標を掲げた。有機米の栽培農家は34から40に販売量は288トから372トに伸ばすとしている。

生産面では▽新規農家への技術指導▽収穫増や省力化を図るスマート技術の導入▽農家の勉強会開催などに取り組む。富裕層向けの販路開拓、「コウノトリブランド」としての商品開発促進、学校給食での有機栽培米活用などの普及策も計画に盛り込んだ。



「オーガニック都市宣言」を行った越前市の山田市長（前列中央）と農業関係者ら＝14日、同市塚町のコープたけふみどり館

令和6年5月14日
福井新聞 掲載

販売にあたって苦労したこと

まずは消費者の理解を得る

北陸新幹線開業にあわせて、越前市を訪れる観光客に「みえるらべる」を貼付した米を配布し県内外へアピールする。



令和6年3月16日
北陸新幹線越前たけふ駅にて



販売にあたって苦勞したこと まずは消費者の理解を得る

新聞等で「みえるらべる」とその取組みを紹介

エコなJA越前たけふのコメ

温室効果ガスの削減など農産物の環境負荷低減の取り組みを示す農林水産省の「見える化ラベル」で、JA越前たけふのコメが、最高ランクの「ダブル三つ星」を獲得した。北陸新幹線の県内開業に合わせて16、17の両日、越前たけふ駅の乗降客に対し、1袋300g入りを目録500袋限定で配布してアピールする。

13日にJA越前たけふ本店で、土本俊三組合長やJA越前たけふコウノトリ呼び戻す農法部会の藤本保男会長らが、これまでの取り組みなどを説明した。コメは「コウノトリ呼び戻す農法米」と銘打って有機農業で生産され、昨年9月に温室効果ガス削減の取り組みで三つ星を獲得した。

今月1日からの見える化ラベルの本格運用に伴い、コメについては、生物多様性保全も評価対象となり、生物多様性に特化した取り組みでも三つ星を取得。化学農薬・化学肥料の不使用、冬期灌水、除草剤を使わない除草など

温室効果ガス削減と生物多様性保全で「ダブル三つ星」を取得した「コウノトリ呼び戻す農法米」＝越前市のJA越前たけふ本店で



の畔管理が評価された。これにより、ラベルに二つの三つ星が表示される「ダブル三つ星」の獲得となった。

越前市とJA越前たけふ、県民生協、越前市社会福祉協議会は昨年6月、温室効果ガス削減に賛同し、4者で連携協定を締結。生産から消費まで一連の流れの中で、各団体間で連携し、温室効果ガス削減に向けた取り組みを進めてきた。（清兼千鶴）

16、17日 駅で限定配布

令和6年3月14日
日刊県民福井 掲載

コウノトリ米三つ星

農水省 生物多様性の保全度評価

JA越前（けふ）は13日、無農薬無化学肥料栽培米「コウノトリ呼び戻す農法米」が、農作物の生物多様性保全度を示す農林水産省の「見える化ラベル」で最高ランクの三つ星に認定されたことを発表した。温室効果

JA越前たけふ

ガス削減効果の評価でも三つ星を取得しており、同JAの農作物としては初のダブル三つ星に輝いた。自然環境に配慮した米作りに取り組む「コウノトリ呼び戻す農法部会」が栽培3月に導入された生物多様



温室ガス削減に続き

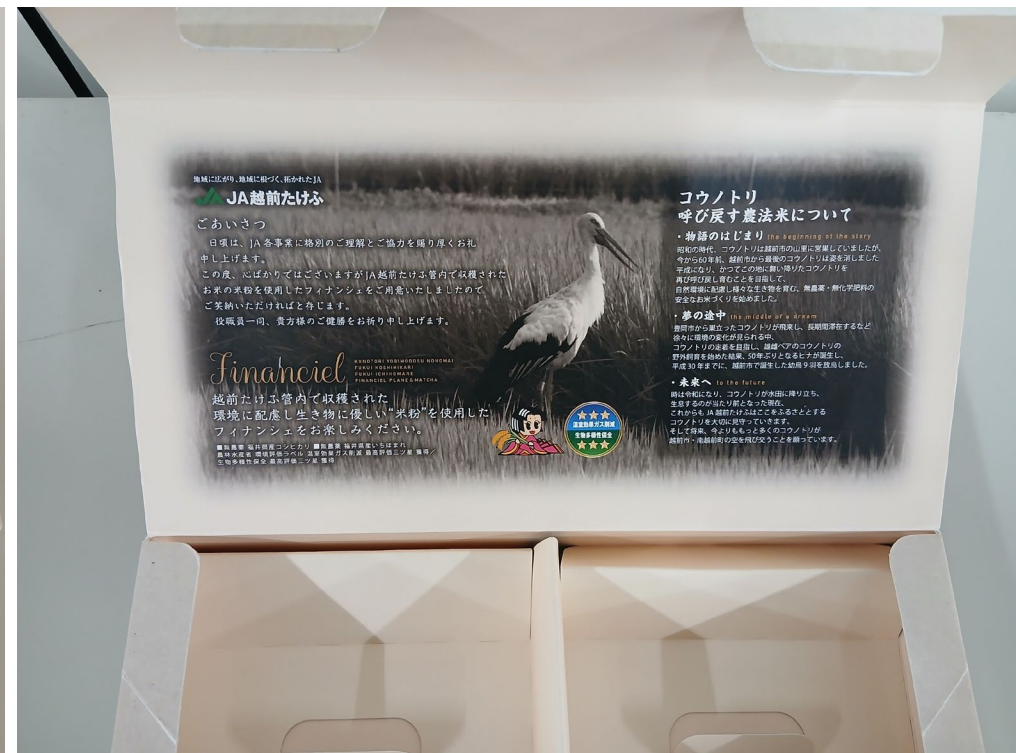
性保全度の評価は、栽培段階の七つの取り組みの点数換算で行われ、化学農薬・化学肥料の不使用、あぜ道の管理、冬期灌水の実施により三つ星に認定された。温室効果ガス削減効果では、最高ランクとなる削減率20%以上の三つ星を昨年9月に取得していた。同農法部会は市内外の米農家21人で構成。作付面積は約30ヘクタールで、今年は2倍の約60ヘクタールを目指している。藤

令和6年3月14日
福井新聞 掲載

販売にあたって苦労したこと

まずは消費者の理解を得る

「みえるらべる」を取得した有機栽培米を使用したフィナンシェを作成。
お土産や贈答用として販売しました。



見える化に取り組んで良かったこと

生産者からは・・・

環境に配慮した特別栽培による米作り
その取り組みが見える化されることで努力が報われた。

消費者からは・・・

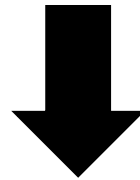
生産者の努力は見えづらいので、こういう取り組みは
継続的に行ってほしいという声もいただいた。

JAとしては・・・

こういった事業をきっかけに様々な反応をもらったり、
イベントを行うこととなった。また、国や県、市との連携
も活発になった。

見える化への消費者の反応

- ・いつも同じお米を購入していたが、特別栽培米を知るきっかけとなった。
- ・生産者の努力や特別栽培米を知ることによって、購入する際の選択肢が増えた。



売り上げの向上や生産者の所得の向上につなげるには、
生産者と消費者、双方のさらなる理解が必要



今後の取組みについて

年々変わる農業情勢を見据えて取組みも変化させていく必要がある。

米価が高騰し、慣行栽培米と特別栽培米との価格差がなくなってきている。

特別栽培に取り組む生産者からすると向かい風だが

消費者からすると特別栽培米に関心を持ってもらうチャンス



今後の取組みについて

双方の理解を深めることが重要

生産者への理解としては・・・

- ・研修会や勉強会
- ・営農メールやラインを通して

消費者への理解としては・・・

- ・販売店でのPR
- ・HPへの記載やInstagramでの情報発信
- ・JA主催のイベント等での周知(ふるまいなど)



今後の取組みについて

みえるらべる事業は生産者や消費者を結ぶきっかけになりうる。

全国的に拡大させ、
継続させることが重要であると考えます。